

当施設の高次脳機能障害に対する 認識と対応について

ショートステイゆきよし とやの
介護職員 山田奈央子

①「高次脳機能障害」について

あなたはどのような意味でとらえていますか？

(意味が分からなければ、

「分からない」と教えてください。)

15名

24名中

約60パーセントの職員が
正しい認識をしていませんでした。

②高次脳機能障害の利用者に対してどのような対応をこころがけていますか？
(特に、A様とB様の2名について。他の方でもあれば記入してください。)

<A様 67歳女性・要介護3>

◇病歴

- ・H20.11.23 多発性脳梗塞
- ・脳梗塞後遺症による痙攣発作

◇身体状況

- ・麻痺:左上下肢
- ・視覚:左半側空間無視
注意障害
- ・移動:車椅子(自操可能)

<B様 67歳男性・要介護5>

◇病歴

- ・50歳 橋梗塞
- ・59歳 脳出血(右視床)

左片麻痺、しびれ

- ・H22.11.29 脳梗塞
右片麻痺出現

◇身体状態

- ・麻痺:左右上下肢
- ・移動:車椅子(自操不可)

【A様の対応】

1. 同じ事をくり返し聞く、話す。(すぐに忘れる。)

.....➤ 否定せず丁寧に説明する。

2. 感情失禁。感情のコントロールができない。

.....➤ 共感してひたすら話を聞く。

3. 言葉が出てこない。言っている事と行動がかみ合わない。

.....➤ 焦らなくても大丈夫だということを伝えて、その間に会話の中で何が言いたいのか読み取る。

4. 半空間無視があり、左右どちらかに注意が向かず、他の利用者の椅子にぶつかったりする。

.....➤ 行動観察・助言・介助

5. 自分中心。他者の介助中であっても職員を呼ぶ。

.....➤ すぐに対応できない時は、理由を説明する。

【B様の対応】

1. 同じ事をくり返し聞く、話す。(すぐに忘れる。)

.....➤ 否定せず丁寧に説明する。

2. コールが頻回(5分～10分おき)。入浴日や退所日について聞いたり、排泄の訴えが多い。

.....➤ 話を傾聴、何度も繰り返し説明をする。執着しているものから気をそらすように話題を変える。
排泄の訴えに対してはその都度対応。

3. 自分が優先されないと不満・大声・暴言が出ることもある。

.....➤ 訴えは否定せず、すぐに対応できない時は理由を説明し納得してもらう。

4. 感情のコントロールができない。

.....➤ 傾聴

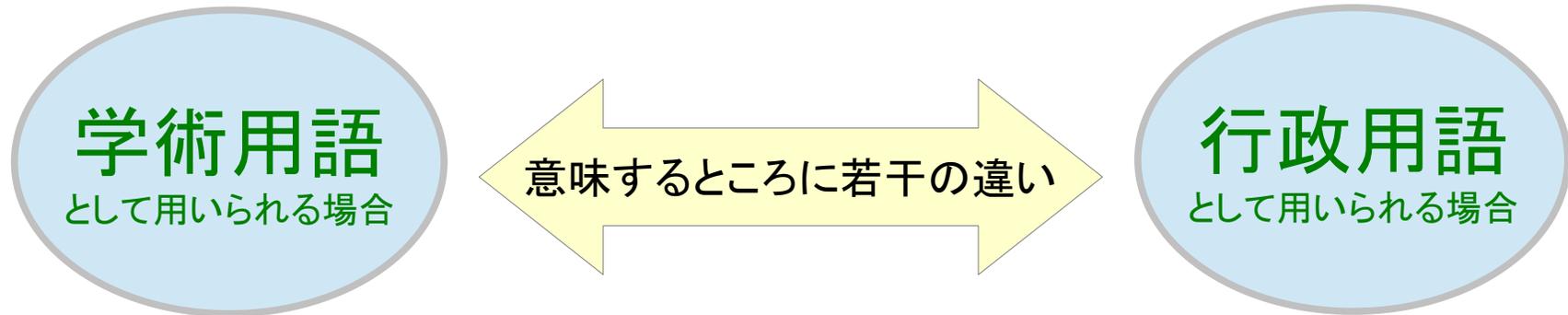
* 対応について、共通して多かった回答

1. 傾聴する。(10人)
2. 何度もくり返し説明する。(7人)
3. すぐに対応できないときは、理由を説明し待ってもらう。(4人)
4. 話題を変え本人の意識をそらす。(3人)
5. 感情的にならないようにする。(2人)
6. その他
 - ・自尊心を傷つけない。
 - ・初めて聞いた振りをする。
 - ・できるだけ笑って対応し、楽しく会話することを心がける。など

◇◆◇ 結果 ◇◆◇

- 部署内における職員の高次脳機能障害についての
認識はほとんど共有されていない。
- 職員それぞれの学びやセンスに任せた対応にとどまっている。
- 高次脳機能障害の用語理解について、部署内で共通認識するという課題が見えたので、高次脳機能障害についてのパンフレットを作成し、配布することにした。
- 今後もさらに、高次脳機能障害についての
研修を部署内でやっていく必要性も感じた。

「高次脳機能障害」という用語



- ・現場での情報源であるカルテを見ても、「高次脳機能障害」とは記載されておらず、判断が難しい。
- ・どのような症状を高次脳機能障害と呼ぶべきなのか、対応策として、具体的なレベルまで落とし込むことが必要。

◇◆◇ まとめ ◇◆◇

利用者の中で高次脳機能障害と思われる方がどれだけいるのか？

(平成24年5月利用者)

11名 / 60名中

約20パーセント(男性5名・女性6名)

今後も、高次脳機能障害に限らず、利用者の症状について、職員の自己流の対応に任せず、施設としての対応や、プランを意識した対応で取り組んでいく努力をしていきたいと思えます。

御静聴ありがとうございました。